

沖縄戦と「戦後」

日米の戦闘に巻き込まれ、平和な日常が戦場へと変容し、沖縄が多大な被害を被ったあの戦争から73年―。「戦後」も、人権を脅かす米軍への抵抗の闘いがやむことはありませんでした。慰霊の月・6月に、公文書館所蔵映像を通して沖縄の近現代をあらためて振り返ります。



1. 沖縄

1940年[1936年] 製作：東京日日新聞社 大阪毎日新聞社
約14分 35mmモノクロ 有声

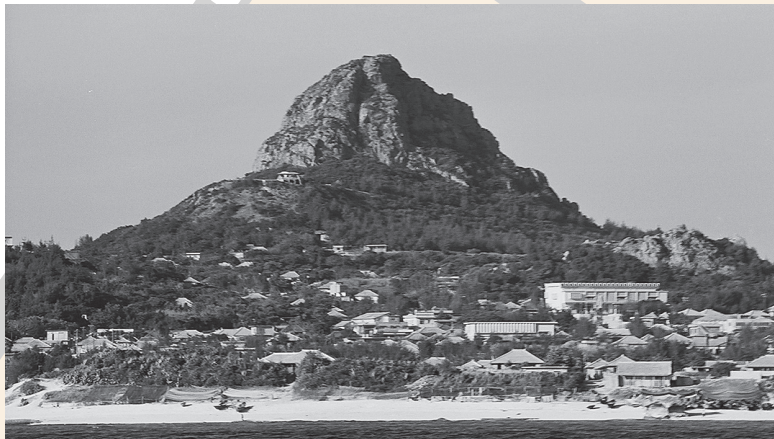
すでに戦時体制下にあった昭和10年代の沖縄の人々の生活や風物を描いた短編ドキュメンタリー。那覇や首里の市街や農村の風物・風景の映像に、いつしか大東亜戦争の戦意高揚を促すナレーションがかぶさる。日本帝国主義が沖縄に与えた役割をうかがい知ることができる。



2. Battle for Okinawa No.3 沖縄の戦い

1945年 製作：U.S. Marine Corps Photographic Service
約23分 16mmカラー 有声(日本語字幕付)

第3水陸両用部隊、海兵隊第1部隊、海兵隊第6部隊のカメラマンが撮影した、沖縄戦も終盤にさしかかった頃の戦場の記録を編集したもの。泥の川をわたる米兵、瓦礫と化した首里/首里城、那覇襲撃、火炎放射器の威力、南部戦線、捕えられた日本軍捕虜、北部山岳地帯での戦闘、星条旗掲揚といったシーンが見られる。



3. 記録映画 人間の住んでいる島

1996年 企画製作：「人間の住んでいる島」製作委員会 約32分 VHSカラー 有声
米軍の土地接収に抗議する伊江島土地闘争の中心的存在であった阿波根昌鴻が93歳の時にカメラに向かって述べた貴重な証言。激しい戦闘、戦後の基地反対闘争、米軍との対峙という過酷な状況にありつつも、尊厳に満ちた闘いの足跡をたどるドキュメンタリー。

日時：**6月16日(土)**

午後2時～3時30分(開場1時30分)

場所：沖縄県公文書館講堂
(南風原町字新川 148-1)

要電話予約：定員80人(定員に達し次第締め切ります)

申込み、問合せ：098-888-3877(普及広報)

主催：沖縄県公文書館指定管理者(公財)沖縄県文化振興会

県民カレッジ連携講座

入場無料

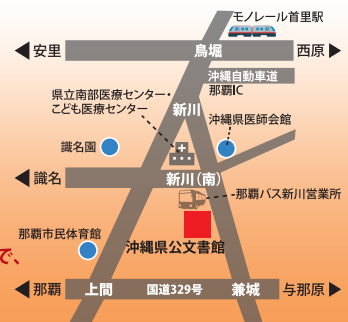
那覇バス

1~5番、14~16番
「新川営業所」
下車徒歩3分

東陽バス

191番
「県立医療センター前」
下車徒歩15分

※駐車場に限りがありますので、
できるだけ公共交通機関を
ご利用ください。



Okinawa
Prefectural
Archives

沖縄県公文書館